

## イグサ品種「夕風」の福岡県における特性

○井上拓治・福島裕助・佐藤大和・石塚明子・藤富慎一<sup>1)</sup>・住吉強<sup>2)</sup>  
(福岡農総試筑後・<sup>1)</sup>福岡農総試・<sup>2)</sup>元福岡農総試筑後)

### 【目的】

現在、福岡県のイグサ推奨品種は「筑後みどり」と「いそなみ」である。「いそなみ」は推奨品種に採用され20年以上経過しており、現在主流となっている無着色畳表には部分変色茎の発生が多く不向きである。また、住宅の洋風化に伴う畳離れや中国産い製品の輸入急増に伴う価格下落によって、福岡県のイグサ経営農家は、収入が減少しており、多収で高品質の新しい品種の選定が強く望まれている。

そこで、「いそなみ」に替わる推奨品種として選定した良質安定多収品種「夕風」の福岡県における特性について報告する。

### 【材料および方法】

「夕風」は、熊本県農業研究センターい業研究所で、1991年に多収品種「いそなみ」を母とし、「沖縄太い」の自殖種子由来の細い茎の個体「沖縄太いS1」を父として人工交雑、1993年に個体選抜試験を実施し、「KC101106」の系統番号が付き、1994年に系統選抜試験、1995年に生産力検定予備試験、1996年に生産力検定本試験供試され、有明5号の系統名が付き、2005年に「夕風」として命名登録された。

本県では、1995年に系統適応性検定試験、1996年から優良品種選定試験に供試した。

### 【結果および考察】

本品種は、「いそなみ」と比較して、

- ・先刈りまでの生育は、茎長が長く、茎数もやや多かった。
- ・草型が直立型で機械収穫に適する。
- ・収穫時の長茎数が多く、多収であった。
- ・生育中の花序着生は多いが、収穫物の花序着生率は少なかった。
- ・茎の太さは細いが、硬度は硬く、1m乾茎重は重かった。
- ・先枯長は短く、長茎先枯歩合が少なく、部分変色茎も少なかった。
- ・乾茎色調が明るい濃緑で、畳表の品質は品位色調が良好なため、畳表評価は高かった。

以上のような特性が認められたので、「いそな

み」に替え推奨品種に採用予定。当面の普及面積は10haを計画している。

栽培上の留意点として、早刈り(6月刈)栽培では、花序の着生率が高くなり、さらに先刈り前の茎長が短く花序の除去効果が小さい(データ省略)ので、春期の地干しが強くなりすぎないように注意し花序の着生防止に努めることが必要である。

表1 生育、収量及び品質

品 種 名	夕風	いそなみ	筑後みどり
先刈り前の花序の多少	多	中	中
先刈り前の生育			
茎長           cm	80	70	73
茎数           本/株	107	103	109
刈取期の生育			
茎長           cm	143	142	142
茎数(120cm以上) 本/株	53	50	52
茎数(105cm以上) 本/株	94	83	92
収量			
120cm以上   kg/a	65.2	58.2	66.5
105cm以上   kg/a	96.5	88.3	95.4
花序着生率   %	1.4	3.6	4.2
茎の太さ      mm	1.29	1.33	1.34
硬度          %	73.2	71.7	66.2
1m乾茎重     g/100本	35.3	34.3	35.9
先枯長        cm	2.1	2.4	3.4
長茎先枯歩合  %	1.6	3.5	2.5
部分変色茎率  %	0.9	13.7	5.5
乾茎色調	濃緑	緑	やや濃緑
畳表評価	3.8	2.4	3.0
製織長        cm/2000本	74.3	73.7	74.8
製織可能枚数  枚/10a	320	321	338

注) 1. 平成8～10年度及び16年度の4カ年の平均。ただし、茎の太さ硬度は平成8～10年度の3カ年の平均。製織長、製織可能枚数畳表評価は平成9～10年度の2カ年の平均。  
2. 茎の太さ、硬度1m乾茎重は120cm以上の長さで選別した。花序着生率、部分変色率、長茎先枯れ歩合は105cm以上の長さで選別した。  
3. 乾茎色調、畳表評価(本間麻)及び製織長は120cm以上で選別したイグサを用いた。  
4. 製織可能枚数は織込み重量2.5kgで製織した畳表の製織長と刈取期の120cm以上茎数から求めた。  
5. 畳表評価は「筑後みどり」を標準(3.0)とし、優れる(5.0)～劣る(1.0)の5段階評価。